

分類	項目別	主な意見	発言委員
(1)	子どもたちの「思いやり」や「おもてなし」の心を育成する教育の推進	<p>他人を思いやる気持ち、挨拶、笑顔、話すときには相手の目をしっかり見る、相手の立場を尊重する、といった姿勢を国民・県民としてしっかり持っていかなければならない。</p>	森田知事
		<p>自分の周りにいる人の気持ちをしっかり理解するとか、最高の笑顔でお迎えをするといった、本来のボランティア精神をしっかりと身に付ける、学んでいくことは重要である。</p>	澤川教育長
		<p>友達や家族、自分の周りの人々の気持ちをしっかりと理解することに努めることが基本である。また、相手の目をしっかり見て会話をしたり、積極的に相手の気持ちを受け止めて、ともに考える姿勢をもつことができるような教育が大切である。</p>	金本委員
		<p>千葉県を訪れる多くの方々、外国人観光客に対して、相手の立場に我が身を置いてみる、そして相手の気持ちに寄り添いながら「おもてなし」の心を持って子供たちが温かく迎え入れていくように、大人も同様の気持ちで普段の学校教育の中で子供と接していく必要があり、そのためにも本来のボランティア精神というものを学校教育で扱っていく必要がある。</p>	
		<p>障害のある人へのおもいやりを育むには、障害のある人との実際の交流が大切である。また、スポーツや芸術分野等で、障害者の持つ才能がより開花し、磨かれ、世界との交流が持てるようサポートする視点も必要である。</p>	佐藤委員
(2)	子どもたちが多様な価値観や文化を尊重し、外国人と主体的にコミュニケーションを図ることができる教育の推進	<p>今回の東京2020大会を契機に、自国の歴史や伝統文化の魅力を啓発していきたい。</p>	森田知事
		<p>(久住小学校の実践例を受け) この事例は、「一校一国運動」をさらに発展させた形で活動の幅も広がっており、地域の良さも生かしている。極めて優れた取組であり、県教育委員会は、こういう取組で得られた成果を多くの市町村や学校に広げていきたい。</p>	澤川教育長
		<p>自国の文化伝統、特に、住んでいる地域に古くから伝わる伝統の理解を深める学習をしっかりと行い、世界から訪れる方々が質問してきたときにきちんと答えられるようにすること。</p>	金本委員
		<p>(久住小学校の実践例を受け) 視野を広げるためにまず自国の文化や伝統への理解を図り、「日本の文化を伝えたい」という意志を育み(伝統文化学習)、積極的に他国とのコミュニケーションをとり(国際交流学習)、よりよい関係を構築していくという教育目標に基づいた教育実践は重要である。</p>	井出委員
		<p>選手たちを受け入れる県として、それぞれの文化に対する敬意や寛容さを持って歓待していくことが新たな時代を切り開く人材の育成に通じていくであろう。また、文化の多様性こそが人類の共通の財産であるという自覚を育むことが大切である。</p>	
<p>ダイバーシティの重要性、あるいは多様性を承認するということが教育の目的の一つだと思う。そのためには、手段ではなくて、あくまでも目的として東京2020大会を活用した国際化の流れに乗ることが必要ではないかと思う。具体的には、外国人と接する機会をもっと多く作り出すことが必要である。</p>	岡本委員		
(3)	子どもたちがスポーツの魅力に触れ、言語や障害の壁を越えて交流することができる教育の推進	<p>教育委員会の「スポーツプロジェクト」や知事部局の「オリ・パラ普及・教育推進事業」などで展開されているアスリートの学校訪問、小中高での体験会は、非常に意義があり、各競技団体との連携が図られているので、今後も継続して行っていただきたい。</p>	京谷委員
		<p>I P C (国際パラリンピック委員会) 公認でパラリンピック独自の教材「I' m POSSIBLE (アィム・ポッシブル)」を活用していくことも一つの方法だと思う。</p>	
		<p>東京2020大会を成功させるためには、子供たちの興味・関心を引くことが非常に重要になってくる。子供たちの心にレガシーを残すことが、オリパラ教育の一番の目的だと思っている。</p>	